

サトイモ科 テンナンショウ属

# ウラシマソウ (浦島草)

*Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H.Hara) H.Ohashi et J.Murata

## 自生環境

山林、野原、神社 など

## 原産地

日本在来

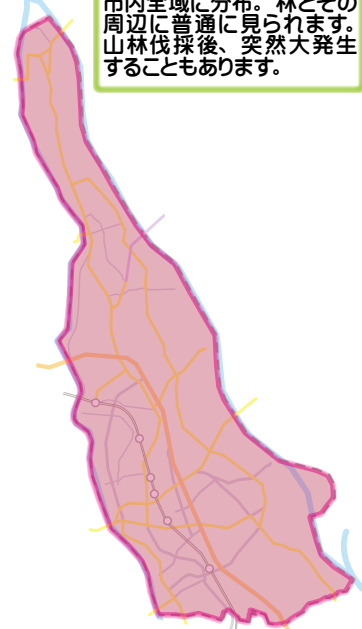
## 生育を脅かす要因



とても丈夫な草で、今のところは普通種です。しかし林は、ササ類の繁茂や不法投棄などで荒れてしまっている場所が多く、取り巻く環境はあまり良好とは言えません。

## 市内の分布状況

市内全域に分布。林とその周辺に普通に見られます。山林伐採後、突然大発生することもあります。



## 特徴

- ☆ 雑木林とその周辺に多く、地中に大きな「いも」をつくる多年草です。古くは「いも」を飢饉の時にさらして食べたと言いますが、毒性が強くて危険なため真似は厳禁です。
- ☆ 春にツノのようなかたちの芽が出ます。やがて芽の先が開いて花と葉が顔を出して数日のうちに開花に至ります。芽吹き段階で花がない場合は、その年は開花しません。雌雄別株ですが、性別は固定されておらず、株の体力が充実していると雌花が、そうでないときは雄花が咲きます。雌花が咲いたときは、秋に赤いトウモロコシのような果実ができます。
- ☆ 葉のかたちは特殊で、専門的には「鳥足状複葉」と呼ばれます。株もとから葉柄が 40 ~ 50cm ほどにのび、その先が左右に分かれて、細長い小葉が何枚もつきます。「茎と複数の葉」があるようにも見えますが、じつはこれ全部で 1 枚の葉なのです。

## 浦島太郎の釣り竿の正体

花がまるで浦島太郎が釣り糸を垂らしているように見えることから、浦島草の名がつけられました。花時に外から見える、茶色っぽい蛇の頭のような部分は「仏炎苞」で、本当の花はそこで咲いています。仏炎苞の中には太い「軸」があり、花は軸の表面についています。軸の先は「付属体」という部分につながり、仏炎苞の口から長くのび出ます。この付属体こそが釣り竿の正体です。



雄花と雌花  
どちらが咲くかは  
年によってちがう



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

